

アンケート結果の公表について

「沖永良部島に暮らす外国人住民との交流の実態と意識」

アンケート「沖永良部島に暮らす外国人住民との交流の実態と意識」へのご回答いただいた知名・和泊両町民の皆様、貴重なお時間をいただき、誠に有難うございました。

以下のとおり、本調査の結果と分析結果を公開いたします。結果についてのご質問等は、末尾のお問い合わせ先よりご連絡ください。

実施方法について

実施方法：Googleフォームを活用したアンケート

実施対象：沖永良部島の島民（知名町と和泊町の町民）

回答期間：4月25日から5月31日の36日間

告知方法：両町のLINE公式アカウント、アンケート実施事業者（合同会社オトナキ）が運営するLINE公式アカウントで周知

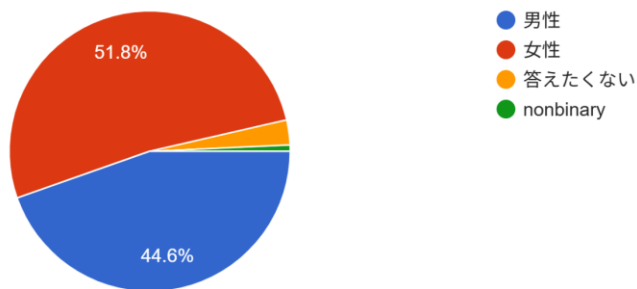
アンケート結果の概要

- 島における外国人住民の人口規模や国籍数などの現状について、一方あるいは両方を認識している方は15%以下で、7割以上が「想像より多かった」と回答。
- 外国人住民の友人がいないと答えた人は、回答者のうち7割程度だった。
- 友人がいなくても、回答者の9割が「機会があれば交流したい」と答えた。
- 外国人の友人がいることと人口規模の認識の間には一定の相関性が見られた。
- 外国人住民の増加をよいと感じる意見が不安と感じる意見より20%上回った。
- 外国人住民の増加を不安に感じる人は、移住者が島出身者より10%上回った。
- よいと感じる理由は「人材不足の解消」が最も高く、島出身者の回答者は、移住者よりも20%多い。
- 「島に住んでいる外国人住民なら交流したい」と回答した人が6割いる一方、町や字を限定した「ご近所付き合い」を希望する回答が3割強あった。
- 交流のテーマは「母国の料理」「母国の暮らしや文化」が半数と最多数。
- 60代以上は交流テーマに「島の文化を紹介」を選ぶ回答が全体より18%高い。
- 「交流したくない」と回答したうちの7割が、自由回答でルール・宗教・治安の懸念に言及。

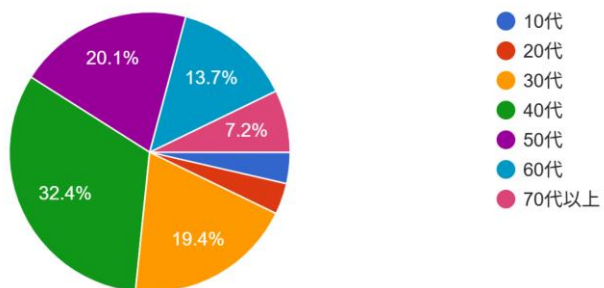
アンケート回答の集計結果（グラフ）

A. 回答者の属性

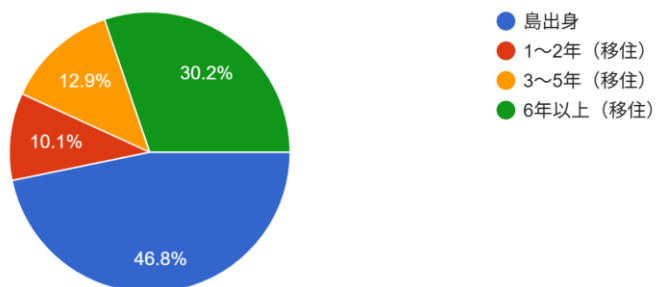
A-1.性別
139 件の回答



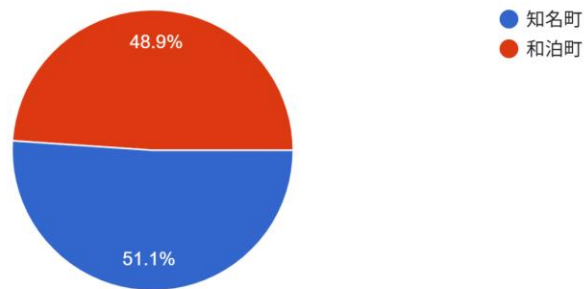
A-2.年齢
139 件の回答



A-3.在住年数
139 件の回答

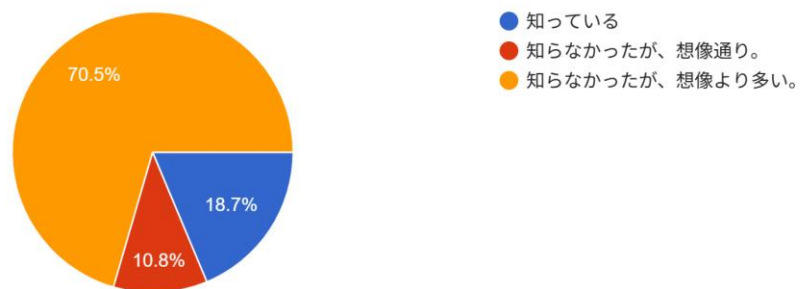


A-4.お住まい
139 件の回答

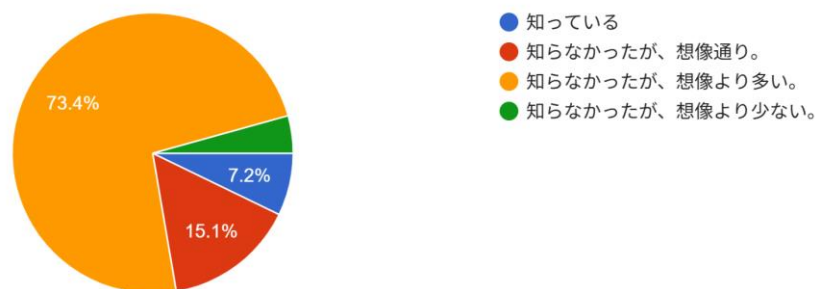


B. 沖永良部島の外国人住民の現状への認識

B-1.和泊・知名町の外国人人口比率は、奄美群島12市町村中1・2位だと知っていますか。
139 件の回答



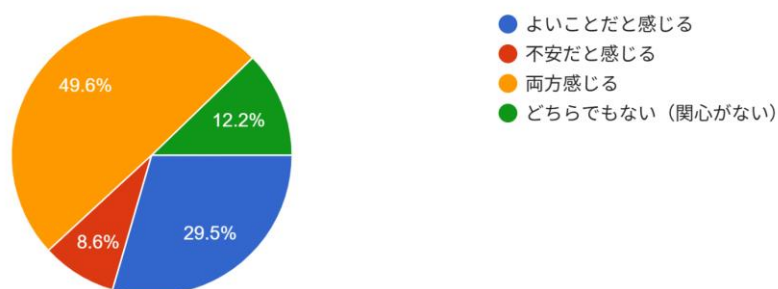
B-2.沖永良部島の外国人住民の国籍数と人数（※）を知っていますか。
139 件の回答



※2023年12月時点で10カ国の人々が、2024年6月時点で201人住んでいます。

B-3.近年、沖永良部島に外国人住民が増えていることについてどう感じますか。

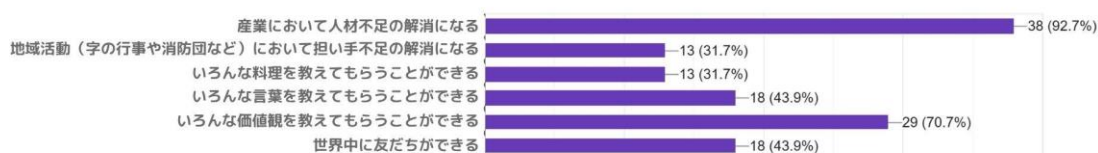
139 件の回答



「よいことだと感じる」と回答した方の理由

B-4.よいことは、具体的にはどのような内容ですか（複数回答可）。

41 件の回答

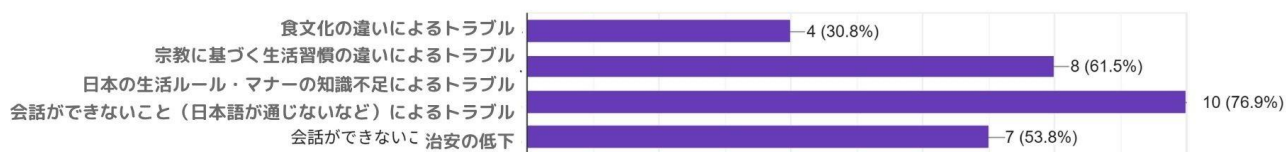


「その他」は4件で、「マナーがよく気持ちいが和らぐ」「人口増加」「違いに対して寛容になれば日本人の移住者も増える」「日本の良い指標になる」などがありました。

「不安だと感じる」と回答した方の理由

B-5.不安なことは、具体的にはどのような内容ですか（複数回答可）。

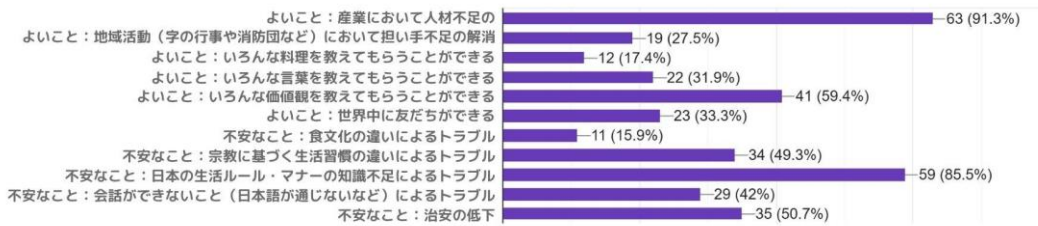
13 件の回答



「その他」は3件で、「納税しているか不安」などがありました。

「両方感じる」と回答した方の理由

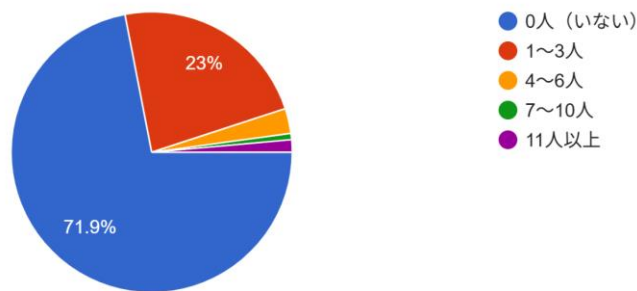
B-6.よいことと、不安なことで、当てはまるものをお選びください（複数回答可）。
69 件の回答



「その他」は3件で、よいことには「自分の価値観が広がり、子どもたちの国際交流の一端となれば人生にいい影響もあり得る」などがあり、不安なことには「外国人に対して壁のある住人が多いと感じる」「外国人住民がよい環境で労働・生活しているか心配」などがありました。

C. 外国人住民との交流への考え・姿勢

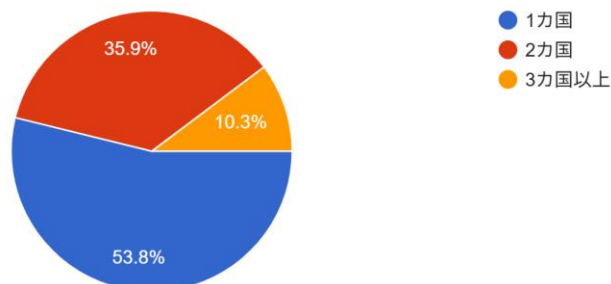
C-1.島で現在、島に住んで5年以内の外国人住民の友達（※）はいますか。
139 件の回答



※連絡先を知っており、プライベートで遊んだことのある人としてします。

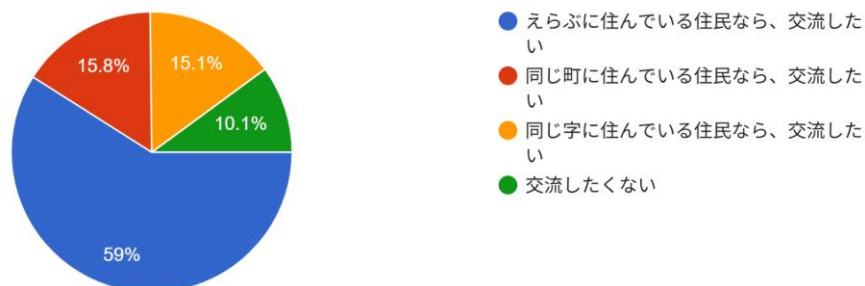
「友達が1人以上いる」と回答した方の集計結果

C-2.何カ国の友達がいますか。
39 件の回答



C-3.機会があれば、外国人住民と交流したいと思いますか。

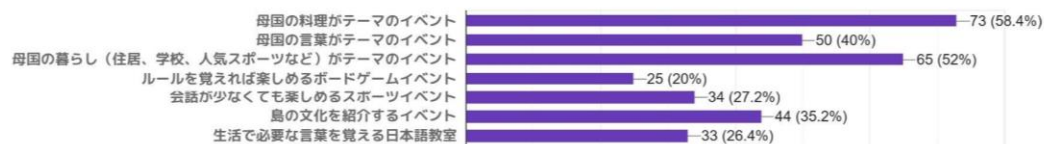
139 件の回答



「交流したい」と回答した方の集計結果

C-4.関心のあるテーマをお選びください（複数回答可）。

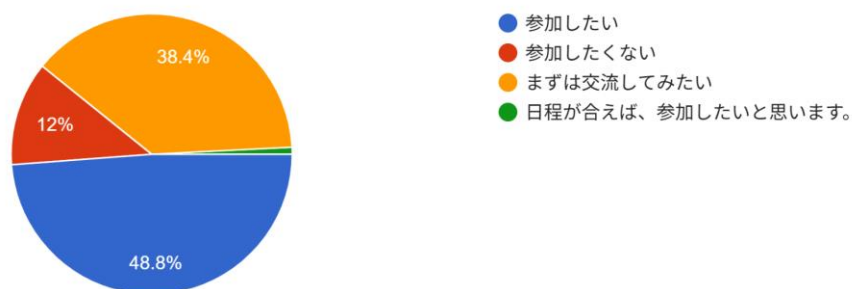
125 件の回答



「その他」は7件で、「島料理やおやつ、しきたりを学ぶ」「意見交換」「なんでも」「各国の成り立ちや文化」などがありました。

C-5.外国人住民と交流する上での基本知識（※）を知る機会があれば、参加したいですか。

125 件の回答



自由回答の傾向

ポジティブ派が多数だが「自然体」を求める

文化交流が最多（48%）で、料理・踊り・言語などを通じて互いを知りたいという声が目立ちました。ただし、「特別扱いせず普通に接したい」「垣根がなくなる未来が理想」など、“構え過ぎない”共生イメージが多く見られました。

経済メリットへの期待と“フェアネス”要求が同居

人手不足解消を歓迎しつつ、「納税や補助金の公平性を確認してほしい」「外国人にも島民にもメリットが必要」と、Win-Winと公正を求めるコメントが散見されました。

一定数の“秩序重視”・“安全最優先”層が存在

ルール・マナー遵守（14%）と治安懸念（8%）を合わせると約5人に1人が、生活ルールの周知などの“リスク管理”を挙げていました。

子どもをハブにした多文化教育ニーズも根強い

「学校行事で母国紹介」「子どもが偏見なく育つ環境を」などの声が約1割ありました。

制度整備・相談窓口を求める声は少数だが具体的

件数は少ないものの、「通訳アプリの使い方講習」「多文化コーディネーター配置」など実務的な仕組み提案が挙げられていました。

お問い合わせ

アンケート実施事業者： 合同会社オトナキ 水嶋
mizushima@otonaki.com

和泊町役場担当課： 企画課 共生・協働係 赤山
kikaku@town.wadomari.lg.jp